

『足利市の教育目標』の具現化をめざして

「教育は、時に対して敏感であると同時に、場所に対しても敏感である。」と言われていたが、ここに教育における地方時代のひとつの必要性が存在するのではないだろうか。そして、教育における地方時代においては、何よりも地域住民の教育的自主性が問われるのであるが、本市では、時代を先取りする形で地域の教育目標づくりが、長期間にわたり、多くの市民の参加と協力によって行われたのであります。しかし、この教育目標を、今後いかに具体化し、具現化するかは、私たちに課せられた極めて大きな使命だと考えております。

したがって、今後、本市教育行政の基本方針としては、生涯教育の立場に立った教育目標の具現化を目指して、あらゆる機会、あらゆる場所で教育が行われ、豊かな人間性の形成と充実した文化活動が展開されるよう、教育諸条件の整備に努めるべきだと考えておりますが、当面する課題としては、次のようなものがあります。

まず、学校教育の改善充実についてであります。ともすれば学校教育が知識の伝達に偏っていた傾向を改め、新教育課程でもねらっている「自ら考え、正しく判断できる力を養う。」ことを重視し、ゆとりあるしかも充実した学校生活を実現するための諸条件整備をさらに推進してまいりたいと考えております。

次には、社会教育の振興充実であります。生涯教育の立場から、幼児期から高齢期に至る多くの人々の学習要求に即応できるよう、その条件整備に努めてまいりたいと考えております。特に家庭の崩壊が現代青少年非行の最大の要因をなしていることを思い、家庭の再建に最善の施策を尽くす必要があるのではないだろうか。

最後に、体育・文化の振興であります。本市は遠い昔から優れた文化を形成し、維持発展してまいりましたが、これを継承し、さらに新しい文化を創造することは私たちの責務だと思えます。また市民の生活水準の向上と余暇の増大、さらに栃の葉団体の成果と相まって、市民の体力づくりへの関心が高まりつつある中で、文化の振興とともに体育振興のための条件整備も重要な施策だと考えております。

なお、具体的には今後、行政としての教育目標、わが家としての教育目標、わが学校としての教育目標、わが職場としての教育目標、わが地域としての教育目標、私の教育目標として、それぞれ実践にうつされ、市民一人ひとりに生きてはたらく教育目標としていかされることにより、心豊かな人間性と、連帯感あふれた地域社会が建設されることを、心より念じております。

昭和56年 1 月

足利市教育委員会教育長 中 村 章